

「ケアの意味をみつめる事例研究」の学術性（案）

<p>実証主義的研究（定量的研究）</p>	<p>実証主義に近い定性的研究 (Lincoln & Guba, 1985; 宮田、大久保、吉江、甲斐, 2011)</p>	<p>構成主義的グラウンデッドセオリー (Charmaz, 2014)</p>	<p>ケアの意味をみつめる事例研究</p>
<p>客観性 Objectivity</p>	<p>確証可能性 Confirmability</p> <ul style="list-style-type: none"> 監査記録 監査経過 研究者・研究参加者の文脈の記述 	<p>記述なし</p>	<ul style="list-style-type: none"> 経験は社会的に構成されるという考え方に基盤を置いており、従来と同じ意味の客観性は適さない。 クライアント・実践者（著者）の文脈を意識化し記述することで、読者が著者の認識を理解・納得できるようにする（「理解可能性（フォン・ウリクト, 1971）」の確保）。
<p>再現（可能）性 Reproducibility 信頼性 Reliability</p>	<p>一貫性 Dependability</p> <ul style="list-style-type: none"> 信用性の高さ トライアングレーション 段階的複製 データ収集の再現可能性 データ解釈の再現可能性 	<p>記述なし</p>	<ul style="list-style-type: none"> データ収集の文脈性・データ解釈の経時的更新性から、従来と同じ意味の再現可能性は適さない。 基本的な事実関係を記録等で確認することは可能。 複数の研究メンバーによる継続的な検討・合意の手続きで、バランスの取れた解釈を確認することは可能。
<p>一般化可能性 Generalizability 外的妥当性 External validity</p>	<p>転用可能性 Transferability</p> <ul style="list-style-type: none"> 厚い記述 	<p>有用性 Usefulness</p> <ul style="list-style-type: none"> 人々の利用できる汎用的なプロセスや暗黙の含意があること、さらなる研究を喚起すること、知識およびより良い世界に貢献できること。 	<p>触発性 (inspirability)</p> <ul style="list-style-type: none"> 読者との間主観的な共通理解が生まれ、読者の知覚と理解の更新・拡張が起きる。 読者の準備性に左右される。
<p>新規性 Novelty</p>		<p>独創性 Originality</p> <ul style="list-style-type: none"> 新鮮さ、新しい洞察、新しい概念生成、知見の有意義さ、現在のアイデアへの挑戦・拡張・改良 	<p>触発性 (inspirability)</p> <ul style="list-style-type: none"> 読者との間主観的な共通理解が生まれ、読者の知覚と理解の更新・拡張が起きる。 読者の準備性に左右される。
<p>内的妥当性 Internal validity</p>	<p>信用性 Credibility</p> <p>信用性の高い知見が得られる確率を高める積極的な取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 同僚との振り返り Peer debriefing 反例分析 Negative case analysis 参照の適切性 Referential adequacy メンバーチェック Member checks 	<p>信用性 Credibility</p> <ul style="list-style-type: none"> 親しみやすさ、データの十分性、系統的比較、概念の網羅性、論理性、独自評価の根拠 <p>共鳴性 Resonance</p> <ul style="list-style-type: none"> 描写の充実、当たり前と思われていた意味の解明、集団と個人のリンク、意味をなし、より深い洞察に至るか 	<ul style="list-style-type: none"> ケアの意味を問うことができるか。 対象者にどのような望ましい変化を導出しているか。 実践の本質的な意味をとらえているかを確認：大見出し・小見出しは実践を的確に表しているか。経験の記述はリアリティが十分か。 読者の追体験を可能にしているか。 読者の準備性に左右される。